

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんとうきょうこうきょうがくだん 公益財団法人東京交響楽団	団体ウェブサイトURL	https://tokyosymphony.jp/
代表者職・氏名	理事長 岡崎 哲也		
制作団体所在地	〒 169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5	最寄り駅(バス停)	大久保
電話番号	03-3362-6764		
ふりがな 公演団体名	とうきょうこうきょうがくだん 東京交響楽団	団体ウェブサイトURL	https://tokyosymphony.jp/
代表者職・氏名	理事長 岡崎 哲也		
公演団体所在地	〒 169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5	最寄り駅(バス停)	大久保
制作団体 設立年月	1946年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	会長:澤田 秀雄、理事長:岡崎 哲也 副理事長:平澤 創、依田 巽、 専務理事:廣岡克隆、理事16名、 評議員長・最高顧問:金山 茂人、 評議員7名、監事2名、特別顧問3名	楽員:76名、ステージマネージャー:2名 ライブラリアン:2名、事務局:11名 加入条件: 楽員/公募によるオーディション 事務局員/公募による試験、面接	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	長久保宏太郎
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	尾木 貴雄
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	nagakubo@tokyosymphony.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称。2011年「公益財団法人」格取得。</p> <p>現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。</p> <p>また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ58都市78公演を行う。さらに「VRオーケストラ」や電子チケットの導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス『TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION』をスタートしたほか、2020年3月にニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴し注目を集めるなど、ITへの取組みも音楽界をリードしている。</p> <p>音楽監督にジョナサン・ノット、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。</p>				
<p>学校等における公演実績</p>	<p>平成24年度16公演、平成25年度28公演、平成26年度19公演、平成27年度27公演、平成28年度34公演、平成29年度30公演、平成30年度30公演、平成31年度22公演 令和2年度8公演、令和3年度16公演、令和4年度19公演</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>オーケストラ公演 平成27年度 1公演、平成28年度 1公演、平成29年度 2公演、平成30年度 3公演、平成31年度(令和元年度) 2公演</p> <p>アンサンブル公演 令和3年度 2公演 令和4年度 2公演</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.kodomogeiijutsu.go.jp/video/musics/c23.html</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名

東京交響楽団

】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	オーケストラ・ワンダーランド ～東京交響楽団演奏会～			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>ロッシーニ:歌劇『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」 小室昌広(編曲):「ディズニーのメロディによる管弦楽入門」(ナレーション付き) 協奏曲(モンティ:チャールダーシュ、モーツァルト:ファゴット協奏曲など) ※協奏曲のソリストにはできるだけ地元にはゆかりのあるメンバーを起用 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」から第1楽章 (休憩15分) 吉松隆:アトム・ハーツ・クラブ組曲第1番より第1楽章 ★アンダーソン:トランペット吹きの日 ★【指揮者体験】ビゼー:歌劇『カルメン』より前奏曲 ★【みんなで歌おう】杉本竜一:ビリーブ または 訪問校校歌 外山雄三:管弦楽のためのラプソディ 【アンコール】久石譲:『天空の城ラピュタ』より「君をのせて」 ※★の曲目は、訪問校の希望に沿って調整し、ビリーブ、訪問校校歌(オーケストラ編曲版)での全校児童・生徒との共演、または訪問校の吹奏楽部・器楽部などとの共演をいたします。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	小室昌広編曲:ディズニーのメロディによる管弦楽入門 吉松隆:アトム・ハーツ・クラブ組曲アンダーソン:トランペット吹きの日 杉本竜一:ビリーブ 外山雄三:管弦楽のためのラプソディ 久石譲:君をのせて
	該当事項がある場合	権利者名 日本音楽著作権協会	許諾確認状況	採択後手続き予定
演目概要	<p>『ウィリアム・テル』序曲の華やかなファンファーレで開幕します。どこかで聴いたことのあるメロディーと躍動感あふれる曲で子どもたちをひきつけます。続いての「ディズニーのメロディによる管弦楽入門」は東京交響楽団の楽器解説のためのオリジナル曲で、小さいころからなじみのあるディズニーのメロディーを使ってオーケストラの各楽器ひとつずつを、メンバーによるナレーション付きで紹介します。協奏曲では、オーケストラの中の一つの楽器をソリストとして取り上げて演奏する、「協奏曲」というスタイルを聴いてもらいます。ここで登場するソリストは、できるだけ地元にはゆかりのあるメンバーを起用します。前半最後は音楽の授業では必ず取り上げるベートーヴェンの交響曲第5番「運命」から第一楽章を演奏して締めくくります。</p> <p>休憩後は、吉松隆氏の弦楽オーケストラで演奏するロック音楽で今までは違うリズムや響きを体験していただきます。そのあとは全体合唱、指揮者体験コーナーで児童・生徒さんの参加していただきます。フィナーレはオーケストラによる「和」を感じていただくために、日本特有のリズムやメロディがふんだんに盛り込まれた「管弦楽のためのラプソディ」で締めくくります。</p> <p>アンコールでは、久石譲氏作曲のジブリアニメ『天空の城ラピュタ』より「君をのせて」を演奏して終演となります。</p>			
演目選択理由	<p>多くの子供たちに「はじめてのオーケストラ体験」を提供できるこの機会を最大限に生かすため、以下の3つの理由を基に演目を選択いたしました。</p> <p>①生の響きを聴かせたい 一度は耳にしたことがある音楽でも、実際に楽器が振動して出す音とスピーカーを通して聴く音との違いを存分に感じられる曲を選びました。「華やかな金管楽器の音」や「優しく繊細な響き」、「床を伝って感じる迫力」などを楽しめるように構成しています。</p> <p>②色々な楽器とその奏者を見てもらいたい 「ディズニーのメロディによる管弦楽入門」では、音楽に乗せながらナレーションで楽器の説明します。その時々で音を出している楽器が良く見えるよう、管楽器は立って演奏します。協奏曲ではその楽器の特徴をより深く、また演奏するメンバーのパーソナリティも紹介し「音楽家」を身近に感じられるように工夫しています。</p> <p>③作品から作曲家の思いを感じてもらいたい ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」は、耳の聞こえなくなったベートーヴェンがその苦難を乗り越えて、どのような音楽を作り上げたのかという作品の背景を、指揮者から児童・生徒に解説します。この解説の後に演奏することで、作曲家はどのような思いで音楽を作り上げたのか、演奏を聴きながら感じられるようにしています。</p>			

<p>児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態</p>	<p>①指揮者体験コーナー 指揮者の役割を指揮者が解説した後に、全校生徒さんに手を動かして指揮者の動きを実習していただき、児童・生徒の代表3名に指揮棒を持ってオーケストラを指揮してもらいます。 ②みんなで歌おうコーナー オペラの指揮経験も豊富な指揮者から、歌うために簡単な発声練習などをした後、オーケストラ伴奏で「ビリーブ」または校歌を全員で歌います。 ③吹奏楽部や器楽部の共演 各校吹奏楽部の部員にとって「素敵な思い出」にできるよう、各学校の部活状況をお伺いした上で曲目、事前指導できるようなプログラムを準備いたします。みんなで歌おうコーナーでいつも演奏している校歌をオーケストラと一緒に演奏することなどもできます。</p>																							
<p>出演者</p>	<p>指揮：大井剛史 ナレーションおよびソリスト：東京交響楽団の楽団員 管弦楽：東京交響楽団(2管12型編成) ピッコロ×1、フルート×2、オーボエ×2、クラリネット×2、ファゴット×2、ホルン×4、トランペット×3、トロンボーン×3、チューバ×1、ティンパニ×1、打楽器×3、ハープ×1 ファースト・ヴァイオリン(コンサートマスター1名含む)×12、セカンド・ヴァイオリン×10、ヴィオラ×8、チェロ×7、コントラバス×6</p>																							
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む</p>	<table border="1"> <tr> <td>出演者：</td> <td>69</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>スタッフ：</td> <td>13</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計：</td> <td>82</td> <td>名</td> </tr> </table>	出演者：	69	名	スタッフ：	13	名	合計：	82	名	<p>運搬</p>	<table border="1"> <tr> <td>積載量：</td> <td>4</td> <td>t</td> <td>2t</td> </tr> <tr> <td>車長：</td> <td>8</td> <td>m</td> <td>5m</td> </tr> <tr> <td>台数：</td> <td>2</td> <td>台</td> <td></td> </tr> </table>	積載量：	4	t	2t	車長：	8	m	5m	台数：	2	台	
出演者：	69	名																						
スタッフ：	13	名																						
合計：	82	名																						
積載量：	4	t	2t																					
車長：	8	m	5m																					
台数：	2	台																						

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	8:30	8:30~10:30 会場でのリハーサル含む		13:30~15:00	15分	15:00	16:00
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月		
	8日			2日			
	11月	12月	1月	計	10日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安	指揮者体験コーナー3人、 校歌歌唱の場合は全員		
				鑑賞人数目安	体育館に収容可能人数(600人程度)		



全景
オーケストラに必要な
スペースは
約9m×約15m



協奏曲ではオーケストラの前にソリストが立って演奏します。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 東京交響楽団】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	クラス単位から全校児童まで
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>※できるだけ演奏会を聴かれる児童・生徒さん全員の参加を希望します。 ※会場は体育館または大きな教室で行います。</p> <p>【ワークショップ指導者】 オーケストラの演奏者(弦楽器1名、管楽器1名、打楽器2名)4人 ピアノ1名 司会1名</p> <p>○オーケストラで使われる楽器から、弦楽器、管楽器、打楽器を間近で見せながら、その楽器の成り立ちや特徴、演奏方法を奏者が解説をしていきます。(各楽器20分程度) ○楽器によっては少しだけ体験してもらえる場合もあります。 ○説明の後にはピアノ伴奏で小品の演奏を行います。 ○打楽器の解説では実際に学校にある楽器をお借りして演奏します。いつもの楽器がプロの演奏によりどのように変わるのかを体験してもらいます。 ○それぞれの楽器で質問コーナーを設けるなど、児童・生徒さんと対話をしながら進めます。 ○弦楽器、管楽器の部分ではおもにメロディーやハーモニーを感じてもらうことを主にします。そして打楽器の部分では、リズム体験を取り入れ実際に児童・生徒さんに参加してもらいます。 ○児童・生徒さんが習い事でいちばん多くふれているであろう「ピアノ」についても希望によりコーナーに取り入れます。 ※吹奏楽部との共演を希望する学校の場合は、吹奏楽部指導をワークショップ当日に行います。</p>		
ワークショップのねらい	<p>ワークショップでは、公演に向けてオーケストラを構成する楽器の種類「弦楽器」「管楽器」「打楽器」についてそれぞれその特徴を知ってもらうこととともに、音楽の主要要素である「メロディ」「ハーモニー」「リズム」をあわせて学んでいきます。楽器紹介の曲がありますので、ワークショップで事前に聴いたそれぞれの楽器がオーケストラの中でどのような役割をはたすのか、またその他にはどんな楽器があるのか、公演に向けて興味関心を持てるようにそれぞれ解説をしていきます。 また、打楽器の解説では訪問校で使われている打楽器をお借りして演奏します。いつも学校で使っている楽器をプロが演奏するとどのような音がするのか、次に自分たちで授業で使う際の「目標」となる音を体験してもらいます</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>音楽の授業で取り上げている曲や、学校での音楽への取り組み(合唱に力を入れている、ボディーパーカッションなどでリズム教育に力を入れているなど)と協調して進めることができます。 それぞれ学校との調整により進めます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

東京交響楽団

】

①本事業に対する取り組み姿勢

SDGsの掲げる目標4 [教育]すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。のうち特に7の「さまざまなさまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる」にあたる活動と考えております。

東京交響楽団は定款の中に、「青少年の音楽普及」を掲げており、教育プログラムは演奏活動の中でとても重視しています。

普段、私たちオーケストラは子ども向けの演奏会も含め、コンサートホールを会場に、初めから演奏を聴く目的で来場して下さるお客様の前で演奏をしています。一方、この巡回公演事業では、子どもたちの「ホームグラウンド」である学校の体育館での演奏で、もしかすると日頃からクラシック音楽に慣れ親しんでいない子どもにとっては、長時間、マナーを守ってコンサートを聴くという初めての体験になるかもしれません。ですが、子どもたちはいつもの友達と、「今日は体育館で何があるんだろう」というワクワク感をもってコンサートを体験することができますし、終演後に感想を交換することもできます。インターネット、CD、DVD、テレビ、ラジオなどいろいろなメディアでオーケストラの「音」は聞いたことがあるかもしれませんが、目の前で繰り広げられる実際のオーケストラの演奏は子どもたちの将来にとって貴重な宝物となるはずです。

演奏を聴く子どもたちの反応はとても正直なので、本物を聴かせること、質の高い演奏、指揮者の適切なわかりやすい解説や、曲目の選択などに特に気をつけています。

この文化芸術による子供育成推進事業-巡回公演事業-では、ただ聴かせておしまいの鑑賞教室ではなく、事前のワークショップで子どもたちに興味関心の芽を植え、その興味関心を花開かせることができる素晴らしい取り組みであると考え、当楽団の活動の中でも重視しています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

1) 当楽団の担当者と各学校の担当者との連絡を密にとります。

2) 学校で事前事業に必要な資料を可能な限り用意いたします。

3) 演奏会を行う学校のカラー・地域性・設備環境に合った、ワークショップ・本公演を準備します。

4) 昨年度公演の実施状況を確認し、見直すべき点があれば、各方面と協議します。

5) 会場に余裕がある場合は、学校のご担当者と協力し、保護者や近隣の住民の皆様、関係諸機関の方々など多くの参加を呼びかけ、その地域の文化活動に貢献できるよう努めます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫